

ホテル老舗 龍名館
宿泊時の電力消費に伴う CO2 排出ゼロへ
法人向け取り組み、都内運営ホテル 2 施設で実施
スコープ 3 削減 企業の動き広がる、出張分野でサポート

ホテル・レストラン業の老舗、(株)龍名館ホールディングス(東京都千代田区)は、法人契約の宿泊を対象に、電力消費に伴う二酸化炭素(CO2)の排出量を実質ゼロにします。法人契約サービスを提供しているホテル龍名館東京(東京都千代田区八重洲1)とホテル1899東京(東京都港区新橋6)で実施します。2024年10月1日(火)の宿泊分から、本取り組みを適用します。

今回、発電情報などをひもづけた「トラッキング付き FIT(固定価格買い取り制度)非化石証書」を活用します。客室ごとに算出した電気使用量に、相当分の FIT 非化石証書を充当することで、宿泊時の電力を100%再生可能エネルギー化します。今回の取り組みに伴う宿泊費の値上げはせず、法人契約の宿泊プランの基本仕様とします。また、要望に応じて、再エネ100%のホテルに宿泊したことを示す証明書を、企業や利用者に発行します。

法人契約する企業は現在約135社です。今回の取り組みで、2ホテルの年間使用電力量の約6%のCO2削減につながります。

昨今、取引先なども含めたサプライチェーン(供給網)全体のCO2排出量「スコープ3」の削減を目指す動きが広がっています。同スコープの「カテゴリー6」*は出張に関連します。

企業側のCO2削減への意識はますます高まると考え、選ばれるホテルを目指し、この度の再エネ化に踏み切ります。出張など、社員の移動や宿泊の多い企業の「カテゴリー6」の削減を目指すサプライヤーとして、持続可能な取り組みを進めてまいります。

*カーボンニュートラルにおけるスコープ3のカテゴリー6は「出張」に関連しています。具体的には、企業の従業員が業務のために行うすべての出張に伴う温室効果ガス(GHG)排出が含まれます。例えば飛行機、電車、車などの交通手段です。企業がカーボンニュートラルを達成するためには、このような間接的な排出も考慮し、削減する取り組みが求められます。



ホテル龍名館東京は、東京都内のビジネスホテルの評価ランキングで1位を獲得するなど支持を得ている

環境への取り組み強化、CO2 排出量 42%削減へ

当社は、2023年1月に「再エネ100宣言 RE Action」に参加したほか、同年6月には脱炭素の国際的な認定機関「SBT イニシアチブ」の認定を国内のホテル・レストラン業態で初めて取得しました。自らが環境に配慮した事業活動を行うことはもちろんのこと、昨今企業の脱炭素経営に関わる情報の開示や、CDP(Carbon Disclosure Project/カーボン情報開示プロジェクト)等の国際的な脱炭素イニシアチブで推奨されるサプライヤーエンゲージメントへの対応を目指し、今回、法人契約企業のご宿泊は全て再エネ電力で賄うことにいたしました。

龍名館ホールディングスとしては、グループ全体のCO2排出量を2021年度比で2030年度までに42%減らす目標を掲げています。

(株)龍名館ホールディングスについて

(株)龍名館ホールディングス(東京都千代田区)は、ホテル・レストランを運営する(株)龍名館(同)を中核企業とする事業持ち株式会社です。

その(株)龍名館は、1899年(明治32年)に旅館業として創業した老舗をルーツとします。同年開業した御茶ノ水の本店「旅館龍名館本店(現ホテル龍名館お茶の水本店)」を源流としており、同旅館は日本画家の川村曼舟や伊東深水はじめ、作家、芸術家など多くの文化人に愛されてきた伝統を持ちます。



木造時代の旅館龍名館本店

作家の幸田露伴の次女である幸田文が、小説「流れる」で、「帝国ホテル」と並び在京の名店に「旅館龍名館本店」を挙げたほか、宿泊した画家が宿泊代の代わりに自身の絵を置くなどのエピソードも残ります。

そんな龍名館ホールディングスは昨今、高品質なサービスや文化、日本旅館のきめ細やかなおもてなしの心を受け継ぎながら、旅館からホテル業への本格的な転換をグループ全体で推し進めてきました。その第一弾となったのが2009年、東京駅前の分店「旅館呉服橋龍名館」(1963年「ホテル八重洲龍名館」に改称)の全面的な建て替えです。ビジネスホテルの中でも一線を画すスモールラグジュアリーホテルを打ち出し、「ホテル龍名館東京」(15階建て、135室)を新築します。このホテルが、国内外で高い評価を得ます。ミシュランガイドの二つ星(パビリオン)を9年連続(2012年～2020年)で獲得するほか、世界最大の旅行口コミサイト「TripAdvisor(トリップアドバイザー)」のエクセレンス認証を8年連続(2011年～)で受賞し殿堂入りを果たします。

2014年には源流である、御茶ノ水の旅館(本店)の全面改修に着手します。客室数を12室から9室に絞り、全室セミスイートルームの小規模高級ホテル「ホテル龍名館お茶の水本店」としてリスタートを切ります。同ホテルは開業から7年連続で、ミシュランの三つ星を獲得しています。

そして2018年12月には、創業期以来100年超ぶりに用地を取得し、新橋・虎ノ門エリア(港区新橋6)に「ホテル1899(イチハチキュウキュウ)東京」(9階建て、63室)を新規開業します。旅館と関わりの深い「お茶」をテーマにした斬新なブティックホテルで、創業年「1899」を冠しています。

歴史について

1899年	M32	創業、「旅館龍名館本店」を開業。建物は洗練された和風の総2階建てで、什器なども選び抜かれた品々を使用していました。全室が庭に面して造られており、その庭の一面には西洋館を設け、コックが洋食も提供していました。こうした最先端の流行を取り入れた旅館は、趣味人や各界の方々を惹きつけ、当時の雑誌にも紹介されるほどでした
1909年	M42	本店の分店として「旅館呉服橋龍名館」を開業
1923年	T12	関東大震災で「旅館龍名館本店」が焼失、順調な旅館経営が進みはじめた矢先でした
1927年	S2	「旅館龍名館本店」を再建
1940年	S15	“幻の東京オリンピック”の年。2階建て8室の新館を建てるも幻となり空振りに終わる
1944年	S19	第二次世界大戦の悪化で、新館8室と広間が「大東亜省」の官舎となる
1945年	S20	東京大空襲を受けるも焼けずに残る
1963年	S38	「旅館呉服橋龍名館」を改築し、「ホテル八重洲龍名館」を開業

1973年	S48	高度成長化にともない高層ビルに建て替えるため着工開始
1975年	S50	現在の龍名館本店ビルが竣工
2009年	H21	「ホテル八重洲龍名館」を解体し、ホテル龍名館東京を開業
2014年	H26	「旅館龍名館本店」を改修し、「ホテル龍名館お茶の水本店」を開業
2018年	H30	創業期以来 100 年以上ぶりに用地を取得、「ホテル 1899 東京」を開業

ホテルとレストランについて

名称	ホテル龍名館東京	ホテル龍名館お茶の水本店	ホテル 1899 東京
所在	東京都中央区八重洲 1	千代田区神田駿河台 3	港区新橋 6
開業	2009年6月	2014年8月	2018年12月
形態	スモールラグジュアリーホテル	小規模型高級ホテル	ブティックホテル
特長	東京駅から最も近いモダン旅館	全9室セミスイートルーム	日本茶テーマ
客室例			
ホテルの レストラン	花ごよみ東京 	レストラン 1899 お茶の水 	チャヤ 1899 東京 
運営会社	(株)龍名館	(株)お茶の水龍名館	(株)1899 ホスピタリティ

(株)龍名館ホールディングス 会社概要

社名	(株)龍名館ホールディングス		
代表者	代表取締役 浜田章男、代表取締役 浜田敏男		
所在地	東京都千代田区神田駿河台 3-4	創業	1899年(明治32年)6月
売上高	約28億円(連結、2024年3月期)	資本金	2000千円
事業内容	ホテル事業、レストラン事業、不動産開発事業、不動産賃貸・管理事業		
系列会社	(株)龍名館、龍名館ビル開発(株)、(株)1899 ホスピタリティ、(株)龍名館ホテルシステムズ、(株)お茶の水龍名館		
系列店	ホテル	ホテル龍名館お茶の水本店、ホテル龍名館東京、ホテル 1899 東京	
	レストラン	レストラン 1899 お茶の水、花ごよみ東京、チャヤ 1899 東京	

本件に関する報道各位からのお問い合わせ先

(株)龍名館 広報担当 渡邊、山口、濱田(はまだ) TEL:050-3668-9894 MAIL:pr@ryumeikan.co.jp
 広報事務局(Clover PR(株)内) 根岸、澤本 TEL:03-6452-5220 MAIL:ryumeikan-pr@cloverpr.net